

事業の成果に関する詳細報告

- 実施団体名：特定非営利活動法人ハートセービングプロジェクト
- 案件名（実施国名）：医療機器輸送事業
- 事業期間：平成 23 年 3 月 18 日～平成 23 年 5 月 16 日

（1）モンゴル国における医療の問題点

近年、鉱山開発等でめざましい発展を遂げているモンゴル国では、私立の病院が続々と新設されております。こうした私立病院での診察・治療はモンゴル国民が加入する国民健康保険の対象外であるため、富裕層は診察・治療を受けることができる一方で、一般市民や貧しい人々は国立病院へ診断・治療を受けに行きます。ところが、公共の福祉の遅れが目立つモンゴル国の国立病院の医療機器は、過去に先進国から贈与を受けた機器が多く、それらの老朽化が目立っております。またこうした環境で働かざるを得ない医師たちのモチベーションは低くなりつつあり、保健制度の適用外である私立病院への転職も目立っております。このため、ますます国立病院では機器のみならず医療技術の遅れも進んでおります。国立癌センターではレントゲン室と肝癌専用のエコー機がなかったため、今回の 2 台はそこへ設置いたします。国立母子保健センターの小児循環器科ではエコー機があるものの、20 年以上前に海外から中古品を寄贈されたもので、10 分程度の使用でヒートアップして 20 分休ませないと使用に堪えないものでしたので、今回はそれと入れ替えます。

（2）今回のプロジェクトによる上位目標

将来のモンゴル国の医療向上をめざして、特定非営利活動法人ハートセービングプロジェクトが日立アロカメディカル社より寄贈されたエコー機 Alpha5SV 3 台をモンゴル国の国立癌センターへ 2 台、国立母子保健センターへ 1 台提供いたしました。

（3）プロジェクトの実施過程

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災とそれに起因する福島原発問題で、日本に滞在する外国人が大量に帰国する騒ぎとなり、その影響を受けて当初、3 月 30 日から 1 週間程度ですべての機器がモンゴル国チンギスハーン空港へ到着する予定が大幅に遅れてしまいました。当初の到着予定を見越して日本からスタッフを派遣いたしました。滞在期間中に機器が到着せず、機器の到着のないままに「贈呈式」を在モンゴル日本大使館内で実施いたしました。会場にはモンゴル国から保健省副大臣も列席されました。テレビ局は UBS（ウランバートルテレビ）、SHUUD TV の 2 つのテレビ局が取材に来ました。

遅延が出た機器は 4 月 23 日にチンギスハーン空港に到着し、その後、国立癌センターと国立母子保健センターへ届けられました。機器到着後の 5 月 15 日～22 日の予定で日立アロカメディカル社から技術員の平野氏がモンゴル国ウランバートル入りし、5 月 16 日に 2 つの病院で機器のセットアップを行い、同日から使用可能となりました。このセットアップの際にはハートセービングプロジェクトからは事務局の宇佐美博幸が立会いに行っております。

(4) 事業の持続可能性

現在モンゴル国には日立アロカメディカル社の公式販売代理店であり業務提携先であるC I T社（住所：501 Business Plaza, Chigis avenue, Shkhbaatar direct Ulaabaatar, Mongolia）があり、今回設置した機器の定期点検を実施いたします。消耗品についても同社で入手が可能です。

1. 国立癌センター

国立癌センターには日本の大学の医学部へ留学していた医師が勤務しており、日本にいた間に機器の使用については問題なく使えるレベルに達しておりましたので、今後も問題なく使用できます。

2. 国立母子保健センター

特定非営利活動法人ハートセービングプロジェクトでは、年に2回～4回モンゴル国母子保健センターと国立第三病院で治療活動を実施しております。その際、現地医師の育成を大きな命題としておりますので、この機器の使用についても継続的に現地医師の教育にあたっていくことができます。

(5) 達成される効果

今回のエコー機提供により、国立癌センターでは年間のべ3000人、国立母子保健センターでは年間のべ2000人ほどの患者がエコー診断を受けることができます。また国立母子保健センターで使用されていたエコー機は画像解像度が大変低く、正しい診断をすることが容易でありませんでした。今回の機器のセットアップ後に画像を確認した医師たちはその画像の鮮明さに驚き、過去と比較し圧倒的に正しい診断が下せることを確認しております。

国立癌センターでは院長自ら大変喜んでおり、セットアップ当日には保健省副大臣も立会われ、セットアップ終了後は院内で軽い式典まで開かれました。

最新鋭の機器を使って診断にあたることができることだけで、現地の医師たちのモチベーションは格段に上がり、今後の医療に対する姿勢が変わることは明らかです。また、ハートセービングプロジェクトが行っているモンゴル渡航治療活動を通じて、これらの機器の使用と診断能力の向上を継続的に目指していきます。